

日本産業衛生学会東海地方会

## 地方会ニュース

発行所 東海地方会ニュース編集事務局  
〒480-1195  
愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1  
愛知医科大学医学部衛生学講座内  
電話 (0561) 62-3580  
FAX (0561) 62-3580  
発行責任者 柴田 英治

題字 皿井 進筆

## 巻 頭 言

## 35 年間の成果？

名城大学薬学部 臨床医学研究室 吉 田 勉



本当に、日本産業衛生学会にはお世話になりました。また島 正吾先生が地方会長になっていた時に「地方会ニュース」と「研修会」を始めたこともあり、随分と地方会の仕事もやってきました。これらの仕事

の中でご年配の産業医の方々と知り合いになれ、また実際にその当時の産業医のご苦勞を見聞することができました。

この間、愛知県の某社、静岡の石綿工場、フィリピンの労働安全衛生センター、浜松の某センター関連のフィールドを持つことにより、じん肺、慢性ベリリウム症、石綿障害、塩化白金酸による喘息、トリエチルアミンによる霧視、鉛（自動半田屋・バッテリー再生工場）、1-ブロモプロパンなどの貴重な経験をさせていただきました。

卒業後の最初の仕事は、昭和 53 年に「新じん肺法」が成立し、「じん肺研究会」でのアンケート調査の実施と集計、またじん肺有所見者の肺機能検査の実施でした。ここで、初めて「新じん肺法」の問題点について学びました。ことにじん肺の肺機能関連の問題・標準フィルムの問題・合併症としての肺がんについては、その後数回改正の仕事のお手伝いをさせていただきました。しかし、何故か決まりそうになると、???から横槍が入るのか、改定できませんでした。世の中には時期とタイミングがあるのか、ここ数年でじん肺の合併症として肺がんが認められ、ついで肺機能の基準値の改正、さらにじん肺標準エックス線写真がデジタルフィルムで公表され、その当時の懸案がほぼ修正できました。

また、私が長く関わってきた愛知県の某社のじん肺も昭和 50 年代には現役労働者でじん肺有所見者が約



窯業原料の粉碎（昭和 50 年代）



窯業原料の投入（昭和 50 年代）

150 名前後いたのですが、ここ数年で 60 歳までのじん肺有所見者をほぼゼロに、また新規じん肺者もほぼゼロにすることができました。

さて、先日の「胆管癌」の例が示すように、まだまだ「新規」の「職業病」の発生は続くのではないのでしょうか？これからも私たちは現場の労働者の訴えに耳を傾ける努力を続けていく必要があります。

## 開 催 報 告

## 平成 24 年度日本産業衛生学会東海地方会学会 開催の御報告

東海学院大学・犬山病院 黒川 淳 一



平成 24 年度の地方会学会は、JR 岐阜駅前にあるじゅうろくプラザにて、11 月 3 日に開催致しました。当日は晴天にも恵まれ、138 名からの御参加を頂き、一般演題も 18 題を数えることが出来ました。

これまでの岐阜県内における同企画開催時と比べ、より多くの御参加を頂きましたことを嬉しく思っております。企画運営委員会一同を代表し、まずは皆様に御礼申し上げます。

一般演題では、例年通り幅広い分野からの御発表を頂きました。午前中、3 会場に分かれ、座長の労を御取り頂いた 6 名の先生方による御指導の下、活発な御討議を頂きました。

特別講演としては、梅津美香先生（岐阜県立看護大学）による産業看護職からの提言が、植木啓文先生（岐阜大学大学院医学系研究科）からはモラルハラスメン

トに関する調査報告を頂くなど、これまでにあまり聞くことの出来ないテーマで御講演を頂き、御好評を頂くことができました。さらには、学会長講演として内田クレペリン精神検査法に関する概論と題し、労働・医療現場をつなぐツールとしての期待に関して御報告させて頂きました。

盛会のうちに開催させて頂きましたのも、岐阜県医師会、岐阜県労働基準協会連合会、岐阜産業保健推進連絡事務所、医療法人桜桂会犬山病院ならびに東海学院大学からの共催、並びに、岐阜県、岐阜市からの後援を頂き広く周知が進んだこと、そして各企業様からの御支援あつての賜と、感謝しております。

現在、岐阜県が東海 4 県内では最も会員数が少なく、運営に何かと困難を来しておりますが、これを機に、何とか盛り返しを図りたいと考えております。今後とも皆様からの御支援・御鞭撻を賜ります様、宜しくお願ひ致します。

## 「熱い！第 26 回振動障害研究会」報告

三菱重工業(株)小牧南健康管理科 産業医 小林 智子



「振動健診って、わかりにくい」「一連続作業時間を短縮してください」以外に指導が無い、と虚しく感じていました。また、「新たな振動障害予防対策指針」の 3 軸合成値や日振動ばく露量も、数式を見た途端錆びた頭が拒否反応！ どう始めればいいのか、とっかかりを得たくて参加しました。

最初に、(株)マキタの蜂須賀様から、メーカーの取り組みの紹介がありました。同じ用途の工具でも 3 軸合成値が非常に異なること、また 3 軸合成値が少し違うだけで、体への負担が大きく異なる（可能な作業時間が変わる）ことが示され、工具の選定が非常に重要であることがわかりました。また、難しい数式を理解しなくても、ノモグラムを使えば日振動ばく露量やばく露時間の上限が求められるので、容易に科学的管理が

できる、素晴らしいツールであることがわかりました。

三菱重工業岩塚工場の産業医和田先生からは、自らの情報提供を引き金に、職場自ら作業時間管理のルール作り・3 軸合成値の実測・問題点の洗い出し等が行われた事例の紹介があり、産業医と職場との相互作用という産業医学の醍醐味を感じさせられる発表でした。

最後に、世話人でもある榎原先生より「振動障害の診断ガイドライン（案）」の紹介がありました。フロアからも活発に発言があり、産業医の苦労に専門家の示唆を頂いたり、現場の声を専門家に届けられる非常に有用な機会となりました。

振動障害は、適切な工具選択と作業管理により科学的根拠をもって予防できる時代になったようです。日本のモノづくりを支える東海地方で、振動障害研究会を中心に、積極的な予防対策が取られることは非常に意義があると思ひました。

## インタビュー

## 和田晴美先生が歩んだ産業看護の道



昨秋、東京で開かれた産業医・産業看護全国協議会の会場での和田さん、柴田、久永の立ち話が始まりだった。名鉄の産業医をしておられた横山恒矢先生の事績から、和田さんが産業看護の道に入ったいきさつへと話が盛り上がり、一度、詳しくお話を伺おうということになった。そして、2013年1月26日夜のインタビューを迎えた。場所は、名鉄グランドホテル、聞き手は、柴田と久永。



和田晴美先生

## ご出身はどちらですか？

額田郡岩津町（現・岡崎市）です。高校は、岡崎北高で、当時は学区制だったので、学区を越えて寄留して入学しました。

## 学生時代は、どのように？

1956年に名市大附属看護学校（現・名市大看護学部）に入学しました。受験倍率10倍で、入学者は15人でした。六鹿鶴雄先生や青山光子先生の授業も受けました。社会医学研究会（社医研）に入り、英国の健康保険制度の勉強もしました。1959年に卒業して、当時の愛知県立保健婦学院に進学しました。その頃、1年制の保健婦養成機関は、東海北陸ではここだけと記憶しています。定員50人でした。

看護学校の3年と保健婦学院の夏休みには佐久病院に出かけ、若月院長の紹介で、無医村に入って集団検診や衛生教育に参加し、回虫の検査もしまし

た。後に愛知県衛生部長になった小沢和郎先生も社医研のメンバーで、佐久に来ていました。ついだというと今は岐阜県産業保健センターにみえる加藤保夫先生は、社医研の最後の世代です。

保健婦学院のとき、前期試験が終わった当日に伊勢湾台風に遭いました。1ヶ月間休校で、被災者救援に取り組みました。西春公民館に出かけ、避難民の検便等もしました。便をガラス棒でシャーレに塗る作業です。まさに現地実習でした。

保健婦学院では、実習の不合理な点について、皆で、県にかけあって、改善してもらったこともありました。かなり、活発な学生だったのです。

## 名鉄に入られたのは？

就職先は、父の勧めもあって、名鉄にしました。1960年4月1日入社で、新制度の看護教育の卒業生の最初の採用でした。所属は労務部衛生管理課で、仕事は従業員の健康管理から職場の環境管理まで産業保健全般でした。1956年に名鉄病院が設立された当時、名鉄の健康管理部門を病院の中に入れるか検討された結果、労務管理部門に残ったと聞かされました。本社に診療所があり、ここを中心に全社の産業保健活動が進められていました。産業保健を担当した医師が横山恒矢先生でした。

【注：横山先生は、戦前、学生時代に農村医療調査をし、朝日新聞から表彰され、本にもなっている。】

## 名鉄での保健師の仕事は？

診療所長で、のちに名鉄病院の初代院長をされた阿久津慎先生の考えで、名鉄には戦前から保健師が採用されていました。当時の主な仕事は、結核管理で、発病した従業員の家庭訪問もしていたそうです。

私が入社当時、既に保健師が何をする人かは、職場の誰もが知っていて、衛生管理に関するいろいろな情報や相談は、すぐに連絡が来ました。衛生管理者と保健師がペアで各職場に駐在していました。入社当時、横山先生から、「和田さんは会社のことばかりするのではなく、外部の研究会や学会活動に参加することも大事なことだと思って下さい。」と言われました。

1960年頃は、私の担当職場の約2,000人から、

健診の度に 5～7 人の結核要療養者が出ていました。療養指導、医療機関・家庭訪問、復職のための主治医との連携等をしていました。1964 年頃から血圧管理が始まり、管理表の作成では他社を参考にもしました。次は糖尿病管理で、尿糖検査も始めました。管理区分は、保健婦が原案を考え、産業医と相談して作りました。休業疾病統計は、毎月、有給休暇も含めて 1 日以上すべてを各職場から本社に報告し、安全衛生委員会に提出していました。これは今も続いているはずで。

私が主に指導を受けたのは小野チト保健婦長です。社内の保健婦のトップが保健婦長で、小野さんは 3 代目の婦長でした。小野さんは、当時、看護協会の事業所委員会の中電、電電公社、東海銀行等の婦長さんらと連携して大活躍でした。関連会社にも積極的に看護職を採用し、教育されておりました。1972 年の安衛法制定時には、関東の深沢くにゑ、奥井幸子、水梨律子、鎌田登志子、関西の上田美代子、九州の鈴木美代さんらと、条文に保健師を入れてほしいと陳情に奔走されたと聞いております。

#### 産業衛生学会での活動は？

1978 年には産業衛生学会に産業看護研究会が生まれました。小野婦長の退職後、この研究会の東海地方の世話人を東海銀行の荻田佳子さんと私が勤め、全国各地の世話人が協力して産業看護の定義を決め、ガイドラインを作りました。私が初めてこの研究会に関わったのは、1982 年の全国集会で座長を務めたときです。

私は、1991 年に 5 代目の婦長になりました。その頃から、衛生管理者が少なくなり、業務は保健師中心に移行しました。保健師は 7 名前後です。大企業の産業医との連携も発展し、産業看護職の位置づけも強まったような気がします。1992 年には産業看護部会が発足しました。東海地方の産業看護職の活動は、看護協会発刊の「産業看護のあゆみ」に書かれています。

#### 長年の活動を振り返るといかがですか？

1995 年に、私は人事部課長になり、予算管理の部長とのヒアリングへの対応等、非常に責任が重くなりました。この頃には、保健師が、乗務員登用試験の健診内容にも全て関わり、問診原案も作るようになりました。

私が取り組んだ課題を挙げると、今までお話しした他に、粉じん、石綿、切符印刷の鉛活字、タイタンパー騒音、自動車整備、鉄道工場、ストレス、喫煙

等もありました。メンタル問題も昔からありました。ビーチランドの水槽掃除担当の高気圧検診という珍しい課題もありました。長期休業者の復職は、保健師が職場と連絡のうえ、本人の状況を見極めて方向性を出しました。療養期間満期で退職になるときは、社会資源を十分活用できる知識を与え退職後の生活に少しでもプラスになるようにお世話しました。

現場のニーズに応えるために、実に多くのことに取り組んできたものだと思います。その中で、学んだのは、

- ① 常にアンテナを高くして正確な情報を得る
- ② 療養者が一番焦り悩むのは休務 2～4 週目で、この時期の療養指導が大事
- ③ 療養者が最善の療養支援を受けられるように配慮
- ④ 復職時の社内規定を説明できること
- ⑤ 家族との連携とキーパーソンの把握
- ⑥ 研究会・学会・看護協会・産保センター等とのネットワーク作り
- ⑦ 労基署やハローワーク等の官公庁との連携
- ⑧ 地域の医療機関の把握
- ⑨ きちんとした話し方と言葉づかい
- ⑩ 先輩・後輩は知恵袋であり、人間関係を大切にすること

などです。

#### インタビューを終えて

1986 年刊の日本産業衛生学会東海地方会史を見返してみた。意外なことだが、産業看護という言葉は現れず、1カ所に女子研究会(176頁)があるだけである。こうした状況の中、先頭に立って産業看護を現在の隆盛に導いてきた一人が和田さんだろう。お話を伺って、和田さんは、学生時代に社医研で学んだことを起点に産業看護の分野に進み、天性の情熱と行動力によって、大きな花を咲かせたとの感を深めた。和田さんは、多数の学会発表やシンポジウム演者、学会役員などをされ、日本産業衛生学会、愛知県、日本看護協会などから多くの表彰を受けておられますが、これからも益々お元気に活躍され、後進の指導にもあたられることを祈念します。

(文責：久永 直見、柴田 英治)

## 会員の声

## 地方会長就任のご挨拶

愛知医科大学医学部 衛生学講座 柴田 英治



この度、東海地方会長に選出され、身の引き締まる思いです。当地方会の先輩会員が築かれた多くの成果をさらに発展させ、次の世代につなぐのが私の役割と考えています。昨年は85回全国学会を担当し、多くの方々が企画、運営の様々な場面で大きな働きをされました。この地方の産業保健活動にとってこれは貴重な財産です。一方で、大きな課題もあります。第一は大学を中心とした人材の育成です。この約20年間の顕著な変化は、かつて産業保健をメインの専門分野とする教室がどの医学部・医科大学にもありましたが、今はその構造が崩れつつあります。一方、看護学分野で大学、学部の新設が進み、研究、人材育成が始まっています。大学関係者の陣容が大きく変わってきたのです。私としてはこの変化を前向きにとらえ、研究の場であるとともに、次代を担う人材育成の場である大学を基盤に、この地方で大いに人材交流を行い

ながら、若い世代を招き入れたいと考えています。

第二の課題は現場で働く人々を対象とした研究の発展です。これは現場の様々な職能の方々の力なしにはできないものです。現代ではメンタルヘルスに関わる法的なマネジメントの課題、非正規労働者の健康問題などの現場でしかできない研究課題が存在している一方で、新たな職業癌が見つかるなどの状況もあり、研究課題は山積しています。しかし、近年の個人情報の取り扱いへの配慮や倫理指針の厳守が求められる中で現場での研究を敬遠する傾向もないわけではありません。とはいえ、課題に立ち向かうためには研究を滞らせることはできません。基礎的な研究を発展させることと同時に現場に立脚した研究をどう進めるのかを改めてみんなで考えることも課題といえます。

当地方会が擁する豊富な人材には心強いものを感じます。分野、世代、職能を越えた交流を進める中で、時代の要請に応えられる東海地方会になるために、全力で会員のみなさまを支援することを誓い、地方会長就任のご挨拶とさせていただきます。

## 新理事就任のご挨拶

ヤマハ株式会社 産業医 山本 誠



この度、日本産業衛生学会東海地方会の理事を拝命致しました、ヤマハ株式会社産業医の山本誠です。せっかくの機会ですので、私の略歴と現在取り組んでいる業務、学会活動についてご紹介させていただきます。

私は平成16年に産業医科大学を卒業し、平成22年に日本産業衛生学会専門医、労働衛生コンサルタントを取得、平成24年に学位を取得致しました。学位論文は「新規化学物質のラットを用いた吸入曝露実験」であり、粉じん等の作業環境管理について勉強致しました。

現職のヤマハ株式会社には平成21年より着任しております。現在行っている業務としては、社内施設で行われる年間約5,000人の受診者に対する健康診断

業務や、約1,300人規模の工場の産業医活動、全国に分散した営業拠点およびグループ会社での健康診断事後措置およびメンタルヘルスの仕組み構築の業務に従事しております。特に全国営業拠点およびグループ企業は激しい競争の中で人事担当スタッフのマンパワーに限られるため、ヤマハグループとしての産業保健活動を、効率を考えながらどのように標準化していくかという課題に取り組んでおります。

また学会活動としては、健康診断データの集計や長期病欠者のデータを収集して、日本産業衛生学会総会ならびに産業医産業看護全国協議会で、必ず年2回は学会発表をさせていただいております。今後は東海地方会の場で、私や同僚の看護職が積極的に発表出来るように準備して行きたいと思っております。

地方会理事の名に恥じないように努めて参ります。今後共ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

## 大学教室の紹介

# 名古屋市立大学大学院医学研究科環境保健学の紹介

名古屋市立大学医学研究科環境保健学（衛生学）教室は、上島通浩教授の下、教員 3 名、技術員 1 名、大学院生（含大学院研究生）3 名、MD-PhD コース学生 1 名、研究員 8 名のスタッフで構成されています（写真）。教室スタッフの研究領域と概略を下記に紹介します。

### 1 有機溶剤トリクロロエチレンによる重症皮膚障害の解明

アジア諸国の有機溶剤使用職場で、重症薬疹に似た全身性皮膚・肝障害患者が発生しています。発症者でヒトヘルペスウイルス 6 型 (HHV-6) が再活性化すること、また、トリクロロエチレンは感作性物質であることを明らかにしてきました。予防法及び早期の診断マーカーの確立を目指しています（上島・伊藤ほか）。

### 2 シックハウス症候群の解明と予防対策の追求

国のシックハウス対策の非対象物質である 2-エチル-1-ヘキサノールの濃度が極めて高く、症状の原因となる場合があります。現在、症状の病態機序の解明を行っています（上島・伊藤ほか）。

### 3 環境化学物質のリスク評価

農薬やプラスチックの可塑剤の生殖器や肝臓に与える影響とそのリスクを検討しています（伊藤・上島ほか）。

### 4 作業関連運動器疾患 (WMSDs) への人間工学対応

主に腰痛などの運動器疾患に関するリスクファクタの研究や、「立位・座位選択可能型 VDT 作業」の有用性検討など、リスク軽減策の応用研究に取り組んでいます。（榎原ほか）。

### 5 産業組織心理学側面からのアプローチ

近年安全分野で注目されている組織レジリエンス（とっさの判断や臨機応変な対応によって事故を回避・軽減する人間・組織の対応力）を応用した医療安全指標の検討や、非正規雇用者のワーク・ファミリー・コンフリクトを解決するための新ツール：多重役割マップ (MRM) の開発など、Holistic approach による組織人間工学研究を展開しています（榎原・山田ほか）。

以上、環境保健学教室の代表的な研究課題を紹介いたしました。詳しくは、下記ホームページも是非ご覧ください。

名市大 衛生	検索
--------	----

<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/hygiene.dir>



後列左より、山田泰行助教、佐藤博貴院生 (D1)、三宅美緒研究員、成瀬春美研究員、鈴木日美子大学院研究生、湊京子技術員  
前列左より、榎原毅講師、上島通浩教授、伊藤由起講師

## 事務局から

## 平成25年度総会決議から

## 平成24年度事業報告

1. 総会を2012年6月23日に名古屋市で開催した。
2. 理事会を4回(2012年6月23日、9月8日、12月15日、2013年2月9日)開催した。
3. 各部による活動を以下のように開催した。

## 1) 学術・国際部

(1)平成24年度日本産業衛生学会東海地方会学会を岐阜市で以下のように開催した。

日 時：2012年11月3日(土)

10:00~16:30

場 所：じゅうろくプラザ

学会長：黒川 淳一

(東海学院大学・犬山病院)

一般演題 18題

特別講演1 「モラルハラスメントに関連して」

植木 啓文

(岐阜大学医学部附属病院)

特別講演2 「看護職からみた産業保健に関連して」

梅津 美香 (岐阜県立看護大学)

会長講演 「内田クレペリン精神検査 概論」

黒川 淳一

(東海学院大学・犬山病院)

参加者数：138名

(学会員93名、非会員45名)

(2)研究会活動を以下のように実施した。

## ①学術連携研究会 教育講演

日 時：2012年11月3日(土)

16:45~17:45

会 場：じゅうろくプラザ 5F 中会議室1

(岐阜市)

テーマ：「職場における有害物質による健康障害の発見と対策」

講 師：久永 直見

(愛知教育大学 保健環境センター)

参加者数：53名

## ②第85回職場ストレス研究会

日 時：2013年1月12日(土)

13:30~16:30

場 所：WINC あいち 小会議室C 1105

テーマ：「今、職域メンタルヘルスに何が求められているか？」

～職場ストレス研究会活動について考える～

講 師：金森 亜矢 (ブラザー工業)

渡井 いずみ (名古屋大学保健学科)

成定 明彦 (三菱電機中津川)

後藤 由紀 (四日市看護大学)

黒川 淳一 (犬山病院)

上原 正道 (ブラザー工業)

参加者数：24名

## ③第26回振動障害研究会

日 時：2013年2月16日(土)

13:00~16:00

場 所：名古屋大学医学部保健学科

本館1階 THPセミナー室

演 題：1.振動障害予防対策指針について工具メーカーの対応例

蜂須賀 智弘

(株式会社マキタ 技術研究部)

2.新振動障害予防指針に基づく産業

医の取り組みの紹介

和田 しおり

(三菱重工業 岩塚健康管理科)

3.日本産業衛生学会振動障害研究会

「振動障害の新しい診断体系検討」

報告

榊原 久孝

(名古屋大学大学院医学系研究科)

参加者数：20名

## 2) 事業部

平成24年度日本産業衛生学会東海地方会総会並びに研修会を名古屋市で以下のように開催した。

日 時：2012年6月23日(土)

場 所：中部大学名古屋キャンパス

6階ホール (名古屋市中区)

企画運営委員会代表：

中元 健吾

(日本ガイシ 安全衛生グループ)

講演1：「日本・世界の社会情勢からみた企業に求められている日本の産業保健活動の概要」

中元 健吾

講演 2 : 「中小企業産業医として考える現在の産業保健活動と今後の産業保健活動の展望」

岡田 則男

(新日鐵名古屋製作所協力会社  
産業医)

参加者数 : 76名

#### 4. 各部会による活動を以下のように実施した。

##### 1) 産業医部会

###### ①第7回東海産業医部会懇話会

日 時 : 2012年10月13日 (土)  
14 : 00~17 : 00

場 所 : 中部大学名古屋キャンパス  
6階 610 講義室

内 容 : シンポジウム

「職場不適應を考える」

座 長 : 岩田 全充 (トヨタ自動車)  
渡邊 美寿津 (愛知医科大学)

###### 1. 「日本企業における労務管理の特性」

江夏 幾太郎 (名古屋大学経済学)

###### 2. 「職場不適應事例への対策の検討」

石川 浩二 (三菱重工業)

###### 3. 「精神科医から見た職場不適應」

吉田 契造 (デンソー)

###### 4. 「職場不適應社員への企業の対応」

～法律家からの提言～

高木 道久 (栄パーク総合法律事務所)

<特別発言> 奥山 真司 (トヨタ自動車)

参加者数 : 56名

②第85回日本産業衛生学会の企画準備に協力した。

③第23回産業医・産業看護全国協議会の企画準備に協力した。

##### 2) 産業看護部会

###### ①短縮Nコースを以下のとおり開催した。

日 時 : 2012年6月9日、23日、7月7日  
7月21日、8月11日、9月29日  
10月20日、11月17日、12月15日  
2013年1月19日、2月16日

場 所 : 愛知産業保健推進センター、静岡産業保健推進センター

②第85回日本産業衛生学会の企画準備に協力した。

③第23回産業医・産業看護全国協議会の企画準備に協力した。

##### 3) 産業衛生技術部会

###### ①第4回東海産業衛生技術部会

日 時 : 2013年1月12日 (土)  
13 : 00~16 : 40

会 場 : 名古屋市立大学医学部  
研究棟 11 階 講義室B

・ 「印刷労働者に発生した胆管癌」

熊谷 信二 (産業医科大学)

・ 「最近の労働衛生行政の動向について」

大久保 克己 (名古屋南労働基準監督署)

・ 「産業衛生技術部会の役割と期待」

加藤 隆康 (グッドライフデザイン)

参加者数 : 36名

②第85回日本産業衛生学会の企画準備に協力した。

③第23回産業医・産業看護全国協議会の企画準備に協力した。

##### 4) 産業歯科部会

###### ①第7回産業歯科部会研修会

日 時 : 2012年11月11日 (日)  
10 : 00~12 : 00

場 所 : 名古屋観光ホテル

内 容 : 「産業保健の基本」

齊藤 政彦 (大同特殊鋼 星崎診療所)

参加者数 : 6名

②第85回日本産業衛生学会の企画準備に協力した。

③第23回産業医・産業看護全国協議会の企画準備に協力した。

##### 5. 役員選挙

2013年本部役員選挙ならびに地方会役員選挙を実施し、新役員・役員候補を選出した。

##### 6. 地方会ニュース編集委員会

地方会ニュースの発行 (79号) を行った。

##### 7. 地方会ホームページの運営

事務局の管理でUMINに設置したホームページの運営を行い、地方会関連行事、理事会の案内などを行った。(http://tosh-net.umin.jp/)



## 8. 本部関連学会等の運営

## 1) 第85回日本産業衛生学会

企画運営委員長：小林 章雄

(愛知医科大学医学部 衛生学講座)

会 場：名古屋国際会議場

会 期：2012年5月30日～6月2日

テーマ：希望！に満ちた労働と生活をサポートするために

参加者数：3,017名

## 2) 第23回産業医・産業看護全国協議会

企画運営委員会 (企画運営委員長：齊藤政彦)

を組織し、会場：名古屋国際会議場、会期2013年9月13日(金)、26日(木)～28日(土)の予定で準備を進めた。

②坂井 令子 (東邦ガス)

②⑧竹岡 麻衣 (NTTドコモ)

静岡

①森田 純仁 (静岡大)

②水田 潔 (ヤマハ)

③望月 幸子 (富士フィルムG 健康保険組合)

④小山 奈緒美 (聖隷福祉事業団)

⑤中西 湖雪 (聖隷福祉事業団)

⑥澤本 育美 (掛川北病院)

⑦富岡 寛行 (静岡県立静岡がんセンター)

⑧山口 保子 (明電舎)

⑨宮本 みゆき (トッピンググループ健保組合)

⑩大古田 良子 (フジ虎ノ門健康増進センター)

⑪松本 光恵 (ヤマハ)

⑫井上 邦雄 (はつおい労働衛生コンサルタント事務所)

⑬渡邊 晋太郎 (聖隷福祉事業団)

⑭影山 淳 (ヤマハ)

⑮山内 恵里加 (本田技研工業)

⑯成田 和歌子 (本田技研工業)

⑰柳川 祥子 (キヤノン)

## 会員の異動 (2012.9.1～2013.5.31)

## (1)新入・再入会員

愛知

- ①匹田 雅之 (済衆館病院)
- ②大森 美保 (キヤノンマーケティングジャパン)
- ③常 杰 (名大)
- ④上原 美穂 (名大)
- ⑤長谷川 共美 (愛知医大)
- ⑥水口 雪 (愛知県警察本部)
- ⑦多賀 三佐子 (アムール・メディカル)
- ⑧川越 隆 (東海ゴム工業)
- ⑨鶴田 義幸 (名大)
- ⑩神崎 友子 (サンエイ)
- ⑪真鍋 由佳 (トヨタテクニカルディベロップメント)
- ⑫日比野 稔 (名古屋セントラルクリニック)
- ⑬小野 要 (小野クリニック)
- ⑭大浦 智子 (星城大)
- ⑮横山 綾子 (大豊工業)
- ⑯井戸坂 美智子 (トヨタテクニカルディベロップメント)
- ⑰武藤 貴子 (エナジーサポート)
- ⑱下町 江梨子 (トヨタ車体)
- ⑲長谷川 真美 (愛知医大)
- ⑳西村 夏弥 (ブラザー工業)
- ㉑川上 友香 (東海理化)
- ㉒佐野 隆久 (東海理化)
- ㉓伊藤 亜由美 (西日本電信電話)
- ㉔森田 延栄 (ファイザーファーマ)
- ㉕大杉 茂樹 (デンソー刈谷診療所)
- ㉖森部 佳子 (東海旅客鉄道)

三重

- ①清野 由美子 (ゆみ子歯科)
- ②中東 真紀 (四日市社会保険病院)
- ③山出 美幸 (上野キヤノンマテリアル)
- ④谷口 真衣香 (パナソニック(株)デバイス社)
- ⑤安田 明日香 (住友電装)
- ⑥山下 朋子 (シャープ)
- ⑦富士原 美保子 (住友電装)

岐阜

- ①小栗 麻貴 (岐阜県スポーツ科学トレーニングセンター)
- ②岩越 孝恭 (多治見市民病院)
- ③奥田 篤史 (富士清空工業所)

## (2)転入会員

愛知

- ①守田 祐作 (新日鐵住金) (九州より)
- ②坂本 龍雄 (中京大) (中国より)
- ③岩崎 登 (トヨタ自動車) (九州より)
- ④梅村 朋広 (愛知医大) (北陸甲信越より)

静岡

- ①垣内 博成 (錦町クリニック) (関東より)
- ②石川 真子 (関東より)
- ③横川 智子 (東海旅客鉄道) (九州より)
- ④安藤 肇 (ヤマハ発動機) (関東より)

## (3)退会会員

愛知

- ①岡田 理恵子 (名大)
- ②西川 真希 (岡谷鋼機)

- ③服部 尚実 (大同ライフサービス)  
 ④松下 孝俊 (コニカミノルタ総合サービス)  
 ⑤加藤 美津子 (ファインシンター)  
 ⑥丸井 逸郎 (丸井医院)  
 ⑦中垣 晴男 (愛知学院大)  
 ⑧牛田 光昭 (トヨタ関連部品健康保険組合)  
 ⑨富田 眞理 (大同特殊鋼)  
 ⑩中島 洋子 (トヨタ紡織)  
 ⑪早川 絵里 (旭精機工業)  
 ⑫田中 豊穂 (中京大)  
 ⑬岩下 孝広 (檜の木福祉会)  
 ⑭間宮 とし子 (三菱東京UFJ銀行)  
 ⑮東城 逸子  
 ⑯永田 紘一郎 (アイシン・エイ・ダブリュ)  
 ⑰長谷川 規子 (名古屋郵政健康管理センター)  
 ⑱清水 江津子 (トヨタ自動車)  
 ⑲赤松 康弘 (愛知医大)  
 ⑳加賀田 聡子 (豊橋創造大)  
 ㉑井上 和代 (エナジーサポート)  
 ㉒佐藤 花子  
 ㉓近藤 礼子  
 ㉔高橋 佳子 (愛知医大)  
 ㉕匹田 雅之 (済衆館病院)  
 ㉖山内 恵子 (名古屋学芸大)  
 ㉗奥村 富美恵 (大同特殊鋼)  
 ㉘松井 静代 (キューピー)  
 ㉙井沢 かおり (中部日本放送)  
 ㊀白谷 尚之 (こどもクリニックぽっぽ)  
 ㊁舘野 文美雄 (たちのクリニック)  
 ㊂嶋村 美喜 (アビームシステムズ)

## 静岡

- ①平野 庸行 (富士フィルム)  
 ②鈴木 宏和 (鈴木歯科医院)  
 ③佐橋 徹 (SBS 静岡健康増進センター)  
 ④稲垣 通子 (JR東海)  
 ⑤高遠 哲也 (さわだメディカルクリニック)  
 ⑥山崎 安曇

## 三重

- ①好井 千鶴 (上野キヤノンマテリアル)  
 ②山岡 久泰 (近畿日本鉄道)  
 ③熊澤 光正 (四日市大)

## 岐阜

- ①下條 梨早 (イビデン)  
 ②舩越 弥生 (岐阜市立女子短大)

## (4) 転出会員

## 愛知

- ①高畑 真司 (東海旅客鉄道) (九州へ)

- ②中道 上 (南山大) (中国へ)  
 ③井上 顕 (藤田保健衛生大) (中国へ)  
 ④山村 明子 (三菱自動車エンジニアリング)  
 (関東へ)

## 静岡

- ①犬飼 みほ (リコー) (関東へ)  
 ②井川 徹也 (聖隷健康診断センター)  
 (関東へ)

- ③佐藤 えり子 (聖隷健康診断センター)  
 (北陸甲信越へ)

- ④井川 徹也 (聖隷健康診断センター)  
 (関東へ)

- ⑤宮崎 洋介 (ヤマハ) (九州へ)

- ⑥青柳 直子 (浜松学院大短大) (関東へ)

- ⑦大山 邦雄 (沼津市立病院) (関東へ)

- ⑧中川 知 (ヤマハ発動機) (九州へ)

## 三重

- ①内藤 雅子 (四日市看護医療大) (関東へ)

## (5) 地方会内異動

## 三重→愛知

- ①酒向 俊治 (名古屋医専)  
 ②高田 幹夫 (MT予防医学マネジメントオフィス)

## 愛知→岐阜

- ①西尾 彰泰 (岐阜大)  
 ②石田 猛大 (岐阜大)

## 岐阜→愛知

- ①岩越 孝恭 (小野クリニック)

## 地方会理事会

## ・ 2012年度第1回理事会

日 時：2012年6月23日10：00～11：30

場 所：中部大学名古屋キャンパス

6階 610講義室

出席者：理事：37名

監事：2名

オブザーバー：1名

## 【議題】

A. 前回理事会議事録の確認

B. 報告事項

1) 本部報告事項

2) 地方会事務局報告事項

3) 愛知県医師会産業保健部会報告

4) 第23回産業医・産業看護全国協議会  
準備状況

5) 平成24年度総会並びに研修会 準備状況

- 6) 平成24年度地方会学会 準備状況
- 7) 地方会部会報告
- 8) 地方会ニュース
- 9) 関連学会・研究会開催報告
- 10) 今後の学会・研究会等
- 11) その他

C. 協議事項

- 1) 平成24年度地方会事業計画 (案)  
予算 (案)
- 2) 平成24年度地方会総会の議事次第
- 3) 2012年役員選挙に係る東海地方会選挙  
管理委員の委嘱

・2012年度第2回理事会

日 時：2012年9月8日10：00～11：30

場 所：名古屋大学医学部鶴友会館 大会議室

出席者：理事：37名

オブザーバー：1名

【議題】

- A. 前回理事会議事録の確認
- B. 報告事項
  - 1) 本部報告事項
  - 2) 地方会事務局報告事項
  - 3) 愛知県医師会産業保健部会報告
  - 4) 代議員選挙・役員選挙について
  - 5) 第23回産業医・産業看護全国協議会  
準備状況
  - 6) 平成24年度総会並びに研修会 開催報告
  - 7) 平成24年度地方会学会 準備状況
  - 8) 地方会部会報告
  - 9) 地方会ニュース
  - 10) 関連学会・研究会開催報告
  - 11) 今後の学会・研究会等
  - 12) その他
- C. 協議事項
  - 1) 会長推薦理事の追加委嘱
  - 2) 平成25年度総会並びに研修会の担当
  - 3) 平成25年度地方会学会の担当
  - 4) 日本産業衛生学会表彰制度推薦

・2012年度第3回理事会

日 時：2012年12月8日10：00～11：30

場 所：中部大学名古屋キャンパス

6階 610講義室

出席者：理事：42名

監事：2名

オブザーバー：1名

【議題】

- A. 前回理事会議事録の確認

B. 報告事項

- 1) 本部報告事項
- 2) 地方会事務局報告事項
- 3) 愛知県医師会産業保健部会報告
- 4) 代議員選挙・役員選挙について
- 5) 第23回産業医・産業看護全国協議会  
準備状況
- 6) 平成24年度地方会学会 開催報告
- 7) 平成25年度総会並びに研修会 準備状況
- 8) 平成25年度地方会学会 準備状況
- 9) 地方会部会報告
- 10) 地方会ニュース
- 11) 関連学会・研究会開催報告
- 12) 今後の学会・研究会等
- 13) その他

C. 協議事項なし

・2012年度第4回理事会

日 時：2013年2月9日10：00～11：30

場 所：中部大学名古屋キャンパス

6階 610講義室

出席者：理事：36名

監事：2名

オブザーバー：1名

A. 前回理事会議事録の確認

- B. 報告事項
  - 1) 本部報告事項
  - 2) 地方会事務局報告事項
  - 3) 愛知県医師会産業保健部会報告
  - 4) 平成25年度総会並びに研修会 準備状況
  - 5) 平成25年度地方会学会 準備状況
  - 6) 地方会部会報告
  - 7) 地方会ニュース
  - 8) 関連学会・研究会開催報告
  - 9) 今後の学会・研究会等
  - 10) その他

C. 協議事項

- 1) 平成24年度地方会事業報告 (案)  
会計報告 (案)
- 2) 平成25年度地方会予算 (案)

## これからの行事予定

### (1) 地方会関連学会・研究会等

#### ① 平成 25 年度総会並びに研修会

日 時：2013 年 6 月 22 日 (土) 10:30~17:10

場 所：じゅうろくプラザ 5F 大会議室

(岐阜市、JR岐阜駅隣接)

企画運営委員会代表：

黒川 淳一 (東海学院大学・犬山病院)

研修会：

特別講演 1 井奈波 良一

(岐阜大学大学院医学系研究科産業  
衛生分野 准教授)

特別講演 2 川口 純子

(岐阜県体育協会 スポーツ科学  
トレーニングセンター  
トレーニング科学第二係 係長)

特別講演 3 塩入 俊樹 (岐阜大学大学院医学系  
研究科精神病理学分野 教授)

共 催：岐阜県医師会、岐阜県労働基準協会連  
合会、岐阜産業保健推進連絡事務所

単 位：日医認定産業医更新単位、産業看護職実  
力アップコース

#### ② 平成 25 年度地方会学会

日 時：2013 年 10 月 26 日 (土)

会 場：愛知医科大学 (愛知県長久手市)

会 長：柴田 英治

(愛知医科大学医学部 衛生学講座)

### (2) 本部関連学会・研究会等

#### ① 第 23 回産業医・産業看護全国協議会

会 期：2013 年 9 月 25 日 (水) ~ 28 日 (土)

会 場：名古屋国際会議場 (名古屋市熱田区)

テーマ：連携、そして発展！産業保健の未来を問う。

企画運営委員長：

齊藤 政彦 (大同特殊鋼(株)星崎診療所)

運営実行委員長：

石川 浩二

(三菱重工業(株)大江西・飛鳥健康管理科)

ホームページ：

<http://square.umin.ac.jp/ncopn23/>

### (3) その他の学会・研究会等

#### ① 第 37 回日本労働衛生研究協議会総会・学術大会

日 時：2013 年 7 月 20 日 (土) ~ 21 日 (日)

会 場：ホテル ルブラ王山

大会会長：金山 敏治

特別講演：「希望！に満ちた労働と生活をサポー  
トするために」

小林 章雄 (愛知医科大学医学部 衛生学)

#### ② 第 72 回日本公衆衛生学会

日 時：2013 年 10 月 23 日 (水) ~ 25 日 (金)

会 場：三重県総合文化センター

(三重県津市一身田上津部田 1234)

学会長：笹島 茂 (三重大学大学院医学系研究科  
公衆衛生・産業医学分野)

#### ③ 第 2 回日本産業看護学会

日 時：2013 年 11 月 30 日 (土) (梅花女子大学)

## 編集後記

新しい編集委員による地方会ニュースの創刊号ができました。昨今 IT (information technology) は日々進化して便利になった反面、個人や企業など様々な情報の流出が時々問題となる現代社会。情報の伝達手段も選択肢が増えましたが、媒体にはそれぞれの利点があります。地方会ニュースでは、紙面を通じて有意義な情報の共有ができるよう、伝達の意味を考えながら今後の編集に携わっていきたいと思います。今後とも何卒よろしくお願いたします。(西谷 直子)

### 東海地方会ニュース

編集委員長：石川 浩二 (三菱重工業)

副編集委員長：西谷 直子 (椋山女学園大)

編集委員：榎原 毅 (名古屋市立大)

黒川 淳一 (東海学院大学・犬山病院)

山本 誠 (ヤマハ)

### 東海地方会事務局

〒 480-1195 愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1  
愛知医科大学医学部衛生学講座内  
TEL：(0561)62-3580 FAX：(0561)62-3580  
E-mail：aratokai@aichi-med-u.ac.jp

### 印刷・製本

株式会社リョーイン  
TEL：(052)412-5251 FAX：(052)412-1440